

経済地理メモ — 社会主義国編 — ⑤ ルーマニア

資料情報係
Information Service Section

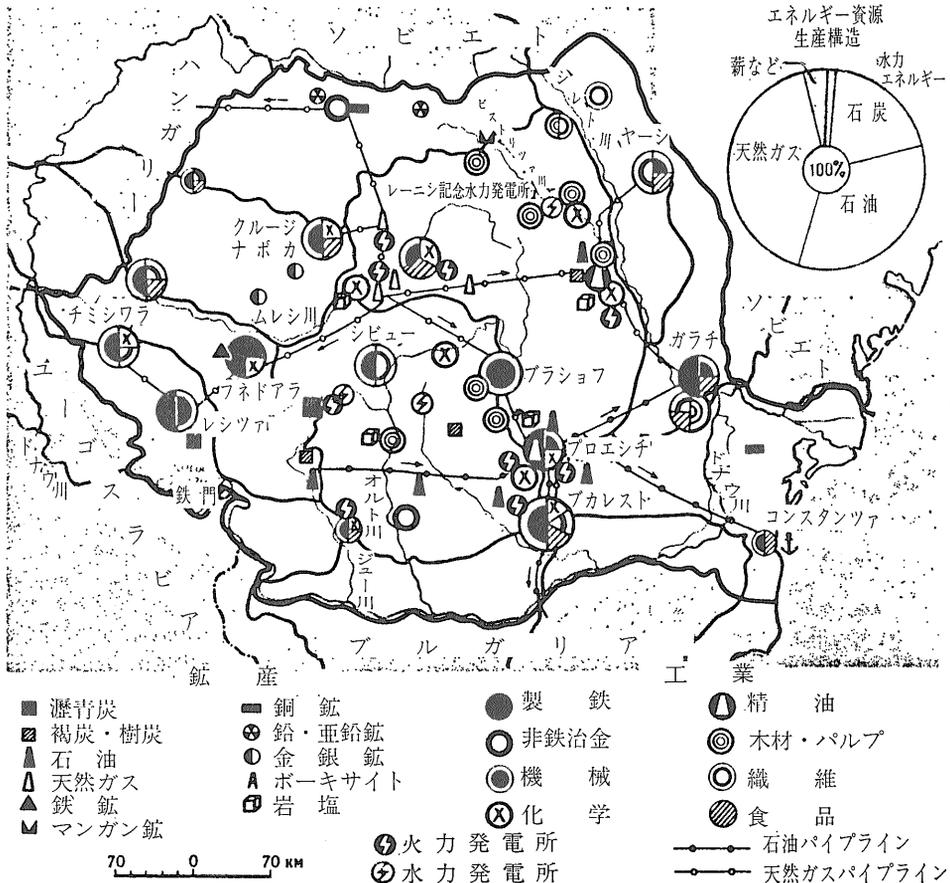
国名 ルーマニア社会主義共和国 (Republica Socialistă Romănia)
面積 23.8万km²
人口 2,200万人
首都 ブカレスト (București)

住民

ルーマニアの民族構成ではルーマニア民族(ローマの子孫)が88%を占め 公用語はルーマニア語(ローマンス語群に属する)であるが トランシルバニア地方ではドイツ語が通じ 国としての第一外国語はロシア語である。第2次大戦前に比較すると 死亡率がいちじるしく低下し 国が産児奨励策をとっていることもあって 人口の自然増加率がヨーロッパの中では比較的高く 労働力に不安がない。人口の都市集中の程度は中部ヨーロッパ諸国よりもはるかに低いが しかしその集中テンポは次第に早まりつつある。

国土

ルーマニアはヨーロッパの南東部にあって 黒海に面し 隣国はすべて社会主義国である。これら隣国諸国およびヨーロッパ中央部の国々とルーマニアを結んでドナウ川が流れ 重要な交通路となっている。



第1図 ルーマニア経済地理要図

経済の特徴

東ヨーロッパ諸国の中でもっとも遅れた農業国であったルーマニアも 戦後の経済発展のテンポが早いために発達した社会主義国の経済水準に近づいてきた。国民所得構成の中で 工業が主な比重を占めるようになり後進地域（モルドバ地方 ドブルジャ地方）も 工業施設の配置がかなり合理的に進められたことによって発展してきた。

経済相互援助会議加盟国としての分担は 鉱物資源と植物資源の加工・精製を基礎にした 主として工業製品を生産するということ および農産物の供給である。

鉱工業

ルーマニアは石油・天然ガス・岩塩・非鉄金属などの鉱物資源に比較的富み ドナウ川とその支流は水力エネルギーの包蔵量が大きいが 鉄鉱とコークス用炭の埋蔵量は少ない。

ルーマニアにおけるエネルギー資源の特徴は 石油と天然ガスの割合が非常に高いということにつきる。しかし最近では 石油埋蔵量が産油量の急増を支えられなくなりつつある。天然ガスの生産テンポは 石油より

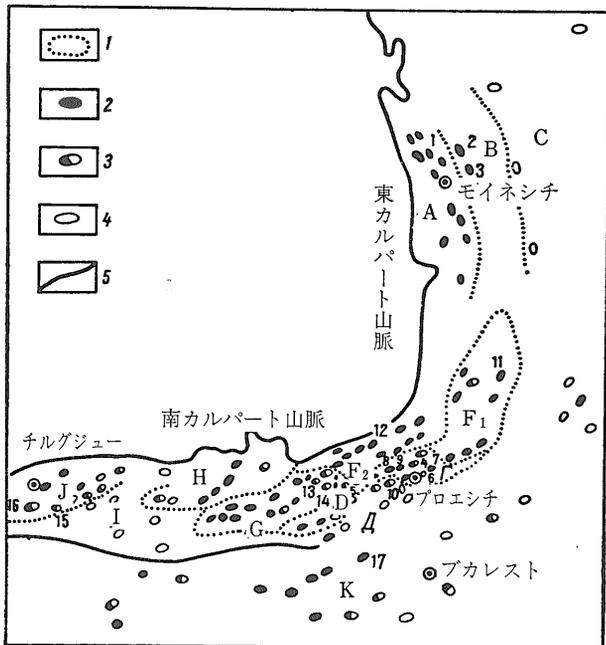
も早い。天然ガスが工業部門のもっとも重要な燃料・エネルギー源となり 大型火力発電所であれば その大部分が天然ガスで動いているのである。

1972年 ドナウ川の「鉄門」峡谷にヨーロッパ最大（ソ連を除くと）のダムがルーマニアとユーゴスラビアの共同事業として完成し 200万kW/時の水力発電所が両国に送電を始めた。このダムは ドナウ川の水位を上げて 山間地域の早瀬の多い河流の舟運条件をいちじるしく改善することとなった。原子力発電所の建設も始まっている。

製鉄の中心は 年間鋼鉄生産量400万t（ルーマニア最大）の新設の製鋼一貫コンビナートがあるガラチで 鉄鉱も製鉄用燃料も副原料もすべてソ連からの供給に依存し コンビナートをガラチに設建したのもその供給の便を考えてのことである。

非鉄冶金では 鉛・亜鉛・アルミニウムが重点で いずれも国内需要を完全に満たし とくにアルミニウムは重要な輸出品となっている。

機械工業は社会主義化後の新興部門で トラクター コンバイン 電気機関車 自動車 試錐機（能力最大7,000m）に力が注がれ 中心地はブカレストとブラショ



- A—モイネシチ—オイツス油田・ガス田帯
- B—テツカニ油田・ガス田帯
- C—シレット油田・ガス田帯
- D—北プロエシチ油田・ガス田帯
- E—西プロエシチ油田・ガス田帯
- F₁—ブザウ—キンピナ油田・ガス田帯大型褶曲帯
- F₂—ブザウ—キンピナ油田・ガス田帯断層褶曲帯
- G—ピテシチ油田・ガス田帯
- H—北ピテシチ油田・ガス田帯
- I—ザトレニナ油田・ガス田帯
- J—ビルテニナ油田・ガス田帯
- K—ブカレスト—クラヨベ油田・ガス田帯

図中の番号：

- 1—フォアレタズラウ油田
- 2—キンペニ油田
- 3—テツカニ油田
- 4—ボルデシチ天然ガス油田
- 5—モレニ—グラオクニツァ天然ガス・油田
- 6—ウルラツ天然ガス田
- 7—チュブツラ油田
- 8—バイコイ油田
- 9—ツインチャ油田
- 10—アリチシチ天然ガス・油田
- 11—アルバナシ油田
- 12—ブシテナリ油田
- 13—アニノサ天然ガス・油田
- 14—テシチ天然ガス・油田
- 15—ツィクレニ天然ガス・油田
- 16—ビルテニ天然ガス・油田
- 17—コルビマリ油田

第2図 ルーマニア領分の前カルパト—パルカン油田・ガス田区 油田・ガス田帯分布図

- 1—油田・ガス田帯の境界
- 2—油田
- 3—天然ガス・油田
- 4—天然ガス田
- 5—大型断層

アの2都市である。

農 業

耕地 (981ha 国土の41.3%) はドナウ川中流低地 ドナウ川下流低地 モルダビア低丘平野に発達し 穀類は完全に自給され 輸出もされている。1962年4月に農業の集団化が完了した。

日本との関係

ルーマニアは1955年12月に国連に加盟し 1959年に我が国と国交を結び 大使館を相互に設置した。我が国との貿易は総額にして約3億ドル (1977年) 我が国の対世界貿易総額の0.2% 輸出の0.32% 輸入の0.05% を占めるにすぎないが ルーマニアが輸入する二酸化マンガンのほとんどが我が国からのものであり また 銅

地金 タングステン地金 亜鉛華 卑金属合金の多くも我が国から輸入されている。ルーマニアが輸出している品目のうち 銑鉄とフェロアロイのほとんど全量と石材の一部は日本向けとなっている (1974年の例)。さらに 原油とガソリンの一部がアメリカを仲介として我が国に入っている可能性もある。

油田・天然ガス田

ルーマニアで石油の探掘が始められたのは1857年 天然ガスは1913年のことである。1975年1月1日現在の既知油田の数は199 天然ガス田は149 同現在までの総産出量は石油が約4.2億t 天然ガスがおよそ2,700億m³ こんにちの産油量は1,700万t前後 産ガス量は350億m³前後である。

地質調査所発行の地質図の購入について 資料室

地質調査所で発行する地質図幅は 東京地学協会・各地の書店等を通じて販売されています。昭和53—54年に地質図の販売を行った書店等は 下記一覧表の通りです。

地質図の出版物目録 (既刊地質図一覧) は 当所資料室・北海道支所・各出張所で無料配布 (送料60円) しています。地質調査所では地質図のほか各種の報告書を発行していますが 地質ニュース誌上に「地質調査所発行の各種地質図」「(年度ご

との) 地質調査所の出版物」その他 として発表していますので参考にして下さい。

なお地質調査所出版物についての問合せは下記へ。

- (地質図) 東京地学協会 電話(03)261-0809, 262-1401
〒102 東京都千代田区二番町12-2
- (地質図) 地質調査所資料室 (0298)54-3601, 3604
報告類) 〒305 茨城県筑波郡谷田部町東1-1-3

全国地質図取扱い書店一覧表

(北海道)		穂積書店 (03)421-6033	(中部)	
北海道鉱業振興協会 (011)231-5412	立野書店 (03)421-8121	新潟大学生協 (新潟大学内)	静岡地図センター (0542)45-0315	
	鳳書房 (03)441-8364	村上書店 (05582)2-0120	豊川屋書店 (0532)54-6688	
(東北)		泉書店 (03)453-6930		
仙台地図店 (0222)22-9322	文星書店 (03)491-6157			
八文字屋書店 (0236)22-2150	近藤書店 (03)571-2480			
	北尾書店 (03)573-3031	(近畿)		
(東京都)		稲田書店 (03)602-3062	小林地図専門店 (075)351-6598	
東京地学協会 (03)261-0809 262-1401	くらや書店 (03)764-2491	シュンク書店 (078)392-1001		
丸善 (03)272-0331	稔書房 (03)811-2769	(中国)		
大久保書店 (03)291-3306	英文堂書店 (03)915-6729	栄文堂 鳥取大学前	河原書店 (0862)25-4055	
東京堂書店 (03)291-3378	栗田書店 (03)965-2111			
金子書店 (03)291-6556	文林堂書房 (03)966-0715	(四国)		
オリオン書店 (03)293-0901	地学文献センター (0423)62-5050	黒川書店 (08789)8-0141		
伊藤書店 (03)294-1988	小笠原書店 (0426)42-2923			
成文堂 (03)351-4917	(関東)		(九州)	
清和堂 (03)353-7832	岩淵書店 (0488)29-2825	横浜市	ムナカタ書店 (0975)43-5118	
紀伊国屋書店 (03)354-0131	有隣堂書店 (0472)51-1111	金海堂書店 鹿児島市西田町	1-7-10	
誠志堂 (03)407-0464	大和屋書店			
霞書房 (03)401-8051	くぬぎ書店	花見川団地名店街		
フレンド書店 (03)413-1931	辰正堂書店 (0473)67-3070			